



かもめのジョナサン (前)

結婚を考える④

約五十年前の一九七〇年、アメリカで出版されたリチャード・バツク著の「かもめのジョナサン」。当時のアメリカのヒッピー文化とあい

まつて、口コミで徐々に広がると、二年半後に大ブレイクし「風と共に去りぬ」を抜いて千四百万部のベストセラー



初版の「かもめのジョナサン」

ほほ時を同じくしてスペインで始まったマリツジ・エンカウター(M・E)より幸せな夫婦になるための運動)でも、初期のころ「かもめのジョナサン」の一部が朗読された。

読書家の妻はM・Eに参加する以前に読んだそうだが、私のジョナサンとの出会いはM・Eである。カモメの写真がふんだんに取り入れられ、非常に読みやすい作品である。

ジョナサンはほかの群衆のカモメたちが餌をとるためにしか飛ばないのに対し「飛ぶ」という行為自体に価値を見いだす。M・Eで使用されたバナナ(タペストリー)のようなものにもあるように「より高く、より深く、より深く、より深く」

「飛ぶ訓練を繰り返す。しかほかのカモメからは理解メからは理解

の世界」で長老から飛

ぶことを余り気に

を含まず、群れ

社会から追放

される。

読んで行く

うちに新約聖

書の世界を連

想させられ

る。イエスはユ

ダヤの民衆に

生きる意味を

語り、悔い改

めを求める

が、民衆からは神を冒と

くしたとして十字架

で殺される。

しかし、イエスの死と

復活を通して「彼こそ

訓練を続ける。やがて

群れのカモメの中から

は余り良くないと誰か

若いカモメがジョナサ

が言い始めたのかもしれないと思

始める。

ジョナサンは再び群

返してみると、夫婦の一

バナナに使用されたジョナサン



ぶことの意味、瞬間移

もかけず、結婚生活で

の二人のより深い一致

について書こうと読み

返してみると、夫婦の一

致を深める事例として

は余り良くないと誰か

若いカモメがジョナサ

が言い始めたのかもしれないと思

始める。

ジョナサンは再び群

返してみると、夫婦の一

致を深める事例として

は余り良くないと誰か

若いカモメがジョナサ

が言い始めたのかもしれないと思